英語の談話標識の特性 及び 日本語との比較

松　尾　文　子

1．はじめに

語用論の分野における談話標識の研究は、1980年代初期に遡る。本論では「談話標識」(discourse marker)という語を用いるが、様々な呼称が見られ、談話標識に分類される項目の統一見解もない。接続詞や副詞、well や oh などの間投詞、of course や all right などの慣用的な句、さらには you know や I mean などの文形式の慣用表現まで多様な項目が含まれる。〔cf. 松尾（2007, 2008)〕

本論では談話標識を以下のように考える。発話と発話、あるいは文脈（発話状況）と発話をつなぐ表現で、当該の談話標識を含む発話と先行発話や文脈を話し手（書き手）がどのようなつなぎ方をしているかを聞き手（読み手）に示す機能を担う。

以下、いくつかの英語の談話標識に見られる共通点を述べ、日本語の談話標識との比較も試みる。それによって、個別の談話標識の記述だけでは見えにくい談話標識という表現の特性が明らかになる。さらに、英語の談話標識の特性は英語特有のものであるのか、ある程度普遍性が見られるのかを解明する手がかりとなる。

2．談話標識の機能の展開

談話標識には、元来語句を修飾する副詞（句）であったものがある。修飾のスコープが広がると文副詞の機能を持ち、さらに主に文頭、あるいは文尾に生じると語用論的な機能を持つようになり、談話標識として用いられる。接続詞の場合は、語と語の接続から、句と句、文（節）と文(節)、もっと広い範囲の発話や談話の接続へと当該語句の接続作用のスコープが広がる。

多くの場合は、論理的・意味的な連結から話し手の態度を表す機能、談話構成機能、対人関係調整機能へと展開して行く。

2.1. actually

actually の原義は、「ある状況が（常識などに照らして）本当である、物事が（単なる想像などではなく）現実に存在している」ことを強調するもので、強意副詞として「実際に、本当に」の意を表す。

談話標識としては、真実性や事実性、あるいは予想と現実とのズレを強調する話し手の態度を表す。前者では、先行発話の内容を明確化・正当化する情報を追加する（1）[1]。後者では、話し手は先行発話で表される予想と後続発話で表される真実や現実との間のズレを認識し、意外感や驚きを抱いて再確認する（2）。

（1） "You can select your own jewelry. And we deliver our prizes anywhere in the United States. Right to the house. *Actually* in the house, not out on the curb."—B.Greene, *The Fortunate* 「お好きな宝石を選べます。それから（番組は）賞品をアメリカ中どこへでも配達いたします。直接ご自宅まで。さらに言わせていただくと、家の中までです。家の前まででではありません」

（2） "You're married！" "I am? Yes, I am." "I knew it. I could tell. You look married." "*Actually*, my wife and I are separated." — *The Seven Year Itch* ［映画台本］「結婚してるんじゃない！」「え？　あぁ、そうだよ」「やっぱりね。そうだと思ったわ。結婚してるように見えるもの」「実は、妻と別居中なんだ」

先行発話から考えると予想外のことを述べ、前件と後件では異なることが示されるので、談話構成レベルでは談話の方向を転換する機能を持つ。

（3） The island of Manhattan derives its name from its earliest inhabitants, the Manhattan Indians. They were a peaceful tribe, …. The husbands, of course, would remain behind on the steaming island to attend to business, setting traps, fishing and hunting. *Actually*, our story has nothing whatsoever to do with Indians. It plays five hundred years later.—*ibid.* 〔物語の冒頭〕マンハッタン島の名前は先住民であるマンハッタン・インディアンに由来する。彼らは平和な種族で、…。夫はもちろん、湯気が立つほど暑い島に残って、罠を作ったり漁や狩といった生業に励んだものだ。しかし実は、この物語はインディアンとは何の関係もないのだ。それから500年後の話である。

ここでは、物語の冒頭で舞台となるマンハッタンの歴史について語られるが、actually は談話の流れを転換して本題に入る合図となっている。

予想と現実のズレを強調する用法では、actually を用いることで聞き手にとって意外性のある、多くは不愉快な事柄を述べることが示される。その結果、聞き手の驚きや不快感を軽減する丁寧表現になり対人関係調整機能が生じる。

（4） "Something's come up, I'm afraid, Sandy. I wondered if I might pop down a moment *actually*." —le Carré, *The Constant Gardener* 「困ったことが起こってしまったのですが、サンディ。実は、今そちらにお伺いしたいのですが」

丁寧表現の 'I wondered if' と共起していることに注意されたい。

2.2. anyway

anyway は（in）any way の形で通例文尾で「どんな方法にせよ」の意の様態副詞として用いられた。作用するスコープが発話や文になると、「（それでも）とにかく、いずれにせよ」の意で譲歩や対比を表したり（5）、「さらに、その上、少なくとも」の意で先行発話の内容を正当化・明確化（6）、あるいは修正・訂正する情報を付加する機能を持つ（7）。

（5） "Can I take the Fifth Amendment?" "No." "Why not? It applies to kids, doesn't it?" "Yes, but not in this situation.…" "Then why did you put me in jail?" "I'm going to send you back there if you don't answer my questions." "I take the Fifth Amendment *anyway*." —J.Grisham, *The Client* 「憲法修正第五条（黙秘権）を行使できませんか？」「だめだ」「何故だめなんですか。子どもにも適用されるのでしょう？」「されるよ。だが、この状況ではだめだ…」「それなら、何故あなたは僕を牢屋に入れたのですか?」「質問に答えないなら、牢屋に送り返すぞ」「それでもとにかく、憲法第五条を行使します」

（6） "Yes, and so I thought, 'Well, I' ll be late for the dentist if I stop and see to it now and *anyway*, the car does seem to be running all right, so－'" —A.Tyler, *The Accidental Tourist* 「そうよ。それで思ったのよ、『今止まってそれ（オイルランプ）を調べたら歯医者に遅れるし、それに車はちゃんと走ってる。だから－』」

（7） "From now on, it's the big time for you, John Packer ..." He paused. "... for a while, *anyway*," he added.—B.Freemantle, *Clap Hands, Here Comes Charlie* 「これからのは大仕事になるぞ、ジョン・パッカー…」彼は言葉を切った。「とにかく、し

ばらくの間はな」と付け足した。

談話構成レベルでは、逸れていた話題を本題に戻したり会話を終了する合図となる。

（8） "Do you have brothers and sisters?" "No," he says. "No. I don't." She makes a face. "You're lucky. *Anyway*, thanks for the Coke. And thanks for walking me." — J.Guest, *Ordinary People* 「兄弟はいるの？」「いや、いない」と彼は答える。彼女はしかめっ面をする。「（私には弟がいて、いろいろ面倒だけど）あなた、幸せね。とにかく、コーラありがとう。それから送ってくれてありがとう」

2.3. but

but の談話標識としての基本的な機能は、先行部分と後続部分との意味的「対比」を表すことである（9）。さらに先行発話で述べられる内容や含意される内容と、後続発話のそれらとが矛盾していることを表す「期待の否認」用法が生じた（10）。「期待の否認」用法では、話し手が期待や予想していたことと異なる状況が生じたことが示されるので、驚き・不快感・反論・疑念などの話し手の態度が表される。意外感が大きい場合は、応答詞的な機能も持つ。〔cf. 3.〕

（9） Saturdays at work and days out of town were the norm. Nothing unusual. *But* today would be unusual. — J.Grisham, *The Client* 土曜勤務も数日間の出張も日常的なことだった。異例なことではない。しかし、今日は異例の事態になりそうだった。

（10） He looked at Telma for help, *but* she was clueless. — *ibid.* 彼は助けを求めてテルマを見たが、彼女は無関心な表情だった。

談話構成レベルでは、先行発話で述べられたことと異なる事柄を後続発話で述べることから、話題を転換する機能を持つ。

（11） "Have you reached a verdict?" "We have Your Honor. Your Honor, we have agreed to hold for the plaintiff, Deborah Anne Kaye and against St. Catherine Laboure, Doctors Towler and Marx. *But*, Your Honor, are we limited on the size of the award?" —*The Verdict* ［映画台本］「評決に達しましたか？」「はい、裁判長。私たちは原告のデボラ・アン・ケイの訴えを認め、聖キャサリン・ラバリー病院とタウラー、マルクス両医師の抗弁を退けます。ところで裁判長、私たちは裁定額については

制限されるのでしょうか？」

対人関係調整機能レベルでは、後続発話で述べる事柄の前提となる情報を先行発話で提示したり、聞き手にとって負担となる質問や依頼などをすることを予め知らせる。それによって、後続発話の内容を無理なく効果的に聞き手に伝えることができる。

(12) "What kind of electrical problem?" "We don't know exactly, *but* the day before the fire, someone called an electrician to the house to fix it." — S.Sheldon, *The Sky Is Falling* 「どんな種類の電機のトラブルだったのですか？」「正確には分からないのですが、火事の前日、誰かが電気工事屋を家に呼んで直したんです」

しばしば 'I'm sorry, Excuse me, Pardon me' などの謝罪表現と共に用いられる。

2.4. in fact

in fact の元来の用法は主に動詞句を修飾するもので、被修飾部が表す内容に対する確実性の度合いを示す。談話標識では in fact が導く発話の内容の確実性を示すだけでなく、先行発話と関連付ける機能を持つ。談話標識としての用法には、「補強・詳述」用法（13）と「矛盾・反論」用法がある（14)。

(13) "I kept the picture. *In fact*, I put it in my wallet. Along with snaps of my other kids." — T.Capote, *Hello Stranger* 「写真は保管しておいたんだ。詳しく言うと、財布に入れたんだよ。他の子どものスナップ写真と一緒に」

(14) During the party Anne found time to watch Henry whenever he was near Milly Preston. There was certainly no outward sign of anything between them : *in fact*, Henry spent more of his time with John Preston.— J.Archer, *Kane and Abel*
パーティの間、アンはヘンリーがミリー・プレストンに近づくたびに彼を監視して過ごした。(2人の仲を疑っていたが）2人の間には特に目立った様子はなかった。むしろ、ヘンリーはジョン・プレストンと一緒にいる時間の方が長かった。

談話構成レベルでは、先行発話で述べられた内容と異なる事柄を後続発話で述べることから、談話の方向を転換する機能を持つ。「でも、ところで」の意で話題転換の合図となる。

(15) "Uh-huh," Charlie's eyes traveled up and down the girl's slender body, and he

asked with a wicked grin, "*In fact*, we were wondering what's exciting around here? After dark?" — L.Fleischer, *Rain Man* 「あはー。ところで、ここで何かウキウキするようなことが起こるのかなぁ。夜になったら」と、チャーリーはほっそりした女の全身に視線を走らせ、いやらしい笑いを浮かべて尋ねた。

2.5. so

元来 so は指示的な機能を持ち、発話状況で示される様態や程度に言及して、「その［この］ように、その［この］程度に」の意を表す。さらに、発話状況とは無関係に程度が著しく高いことを表すようになり、「とても、非常に」の意の程度副詞の用法が生じた。指示する内容が文脈の一部である場合、前述の内容を受ける代用表現として機能し、「そう（思う・する)」「本当にそうである」のように用いられる。さらに so の機能化が進み、現在では前述の内容を受けて結論を導く接続語として広く用いられる。

談話標識としては、論理的なつながりのみならず、発話と発話、発話と発話の状況などを話し手の推論によって結びつけ、推論結果を示す。

(16) "A crazy mind created this weird story about the body being at his house." "*So*, you don't think it's really there?" — J.Grisham, *The Client* 「気が狂った奴が自分の家に死体があるという奇妙な話をでっち上げたんだよ」「じゃぁ、死体はそこにはないと思ってるのね？」

(17) The police man looked at Charlie and Charlie smiled back. "*So* you know about the robbery?" queried the man.— B.Freemantle, *Clap Hands, Here Comes Charlie* 警官がチャーリーに目をやると、チャーリーは笑みを浮かべた。「では、盗難事件のことはご存知なんですね？」と警官は尋ねた。

(17) では、話し手は発話ではなくチャーリーの様子から、so 以下のような結論を導き出している。ことばで表された発話ではなく、非言語的な発話の状況に基づく推論である。

談話構成レベルでは、会話の終了の合図となったり、聞き手の注意を引いて新しい話題を導入する。

(18) "*So* that's it," Vincent Lord concluded ten minutes later.— A.Hailey, *Strong Medicine* 「さて、僕の言いたいことはこれで全部です」ヴィンセント・ロードは 10 分後に話を終えた。

対人関係調整機能レベルでは、so 単独で「それで？」の意で相手に発言を促すために用いられ、話を続けやすくする気遣いが表されることもあるが、相手の発言に異議を唱えたり非難することも多い。

(19) "I'm on these crutches." "*So*? It's good exercise for your leg," she said.— A.Tyler, *The Accidental Tourist* 「松葉杖をついてるんだよ」「それで？ 脚にはいい運動じゃないの」

2.6. then

談話標識としての then の機能は、時を表す副詞 then から展開した。「その時」が過去を示す場合、発話時点から遡った時点を指す。このことは、「あなたが先行発話で述べたことからすると…ということになる」という推論を表す用法に反映される。時を表す副詞の場合、基本的には動詞句を修飾するが、談話標識では作用するスコープが先行発話になる。

(20) "Silas has located the keystone. It is in Paris. Within the Church of Saint-Sulpice." Bishop Aringarosa smiled. "*Then* we are close." — D.Brown, *The Da Vinci Code* 「シラスがキーストーンのありかを突き止めました。パリです。サン・シュルピス教会の中にあります」アリンガローサ司教は笑みを浮かべた。「なら、我々は近くにいるということだ」

「次に」の意で順序を表す副詞 then が談話標識の機能を持つと、しばしば well、oh、okay、now、so などが共起して、新しい話題や見解を導入して会話を開始したり、話題を転換したり、会話を終了する合図となる。

(21) "I don't mind you smoking in my room, but not in my clothes closet." "It's good for the moths. *Now then*, Linus, what about that girl over the garage?" —*Sabrina* [映画台本]「私の部屋でタバコを吸うのは構わないけど、クロゼットの中では駄目ですよ」「虫除けにはいいぞ。ところでライナス、車庫の上の女はどうなった？」

(22) "*So then*," she said. "You walk?" —le Carré, *The Constant Gardener* 〔彼女は話を終えて立ち去ろうとしている〕「じゃぁ。あなたは歩いて帰るの？」

2.7. though

though が従属接続詞として用いられる場合は、従属節の内容からすると主節の内容は予想外

のことで、両者の対比を表す。接続副詞で談話標識として用いられると、先行発話と though を含む発話を対比し、先行発話からすると驚くことや、先行発話の真実性や重要性を減じる情報が述べられる。

(23) "You got a satellite? They show all those old, uh, westerners." "Westerners? I like comedies myself. I did like Shane though. That's a good one." — *The Negotiator* [映画台本]「衛星放送に入ってる？　古いのをやってるよ、西部劇なんかを」「西部劇か？　僕自身はコメディーが好きだな。『シェーン』は良かったけどな。あれは良かったよ」

談話構成レベルでは、先行発話とは異なることを though を含む発話で述べることから、談話の方向を転換する機能を持つ。

(24) "I went to see the family doctor, who confirmed that the lump was fairly firm, therefore possibly it could be cancer, and I was referred to a breast clinic." "Now, *though*, let's have a quick Health File on basic breast care." — *English Journal* 1999.9 〔BBC の健康をテーマにした番組で乳癌の自己チェックについて〕「家族のかかりつけの医者に行ったら、医者がその（自分で見つけた）しこりがかなり硬く、したがって癌かもしれないと確認し、それで私は胸部外来に紹介されたのです」「さて、では、基本的な胸部ケアについての短時間でできるヘルスファイル（でチェックポイント）を聴いてみましょう」

3．応答詞的機能

応答発話で談話標識が単独で用いられたりコンマを伴って文頭で用いられると、話し手の強い感情が表される応答詞的機能を持つ。表される感情は、談話標識によって異なる。例をあげる。

actually は 'Well, actually.' の形で独立して用いられ、質問に答える際に聞き手にとって予想外の事柄を伝えることを示す。

(25) "Now, let me ask you something, Anya. Was it ... there's a last name that goes with that?" "*Well, actually.* This is gonna sound crazy. I don't know my last name. I was found wandering around when I was eight years old." — *Anastasia* [映画台本]「ちょっと聞いてもいいかな、アーニャ。そのぅ…アーニャに続く苗字はないの？」「え

えっと、実はね。変だと思うだろうけど、苗字を知らないの。8歳の時にさまよっているところを見つけられたの」

先行発話の内容からすると後続発話で表される事態は予想外のことで、先行発話で示される事態を話し手が受け入れ難く感じている場合、but を用いることでしばしば反論・疑念・不満・驚きといった話し手の批判的感情が表される。

(26) "Get out of my club and don't ever come back?" "*But*, Johnny? what are you talking about?" — T.Clancy, *Patriot Games* 「私のクラブから出て行って、二度と来ないでくれないかい」「でもジョニー、何のことを話してるんだ?」

単独で用いられた so が「へぇ、まさか」の意で新しいことを発見した驚きなどを表すことがある (27)。また、相手の発言が不十分である場合に「それで（どうしたって）？」の意で相手の発話に上昇調で答える (28)。

(27) *So*! You've got a new girlfriend?— *Longman Dictionary of Contemporary English* (4thed.) そうだったんだ！ 新しい彼女ができたってことだね。

(28) She nodded. "It's a deal." "*So*?" "*So* what?" "So tell me." — L.Block, *The Burglar in the Library* 彼女はうなずいた。「取引よ」「それで？」「それで何なのよ」「教えてくれよ」

'So what?' も下降調で「それで（どうしたって）？」の意で用いられる。

4．発話行為に関わる表現

談話標識が発話内容ではなく、発話行為に関わる接続機能を持つことがある。

anyway が疑問文で用いられると、逸れた話を本題に戻そうとする話し手の意識が反映されて「ところで」の意になり、「先述した内容はさておき、私は以下の事柄を尋ねる (I ask)」と解釈され、発話行為に関わる部分を修飾する。

(29) "And where did you disappear to with them for so long?" "Mmmm. Wait. I didn't disappear with anybody. Ziegier wasn't feeling too well and I got called upstairs to see him. *Anyway*, who was the guy you were dancing with?" — *Eyes Wide Shut*

[映画台本]「で、彼女達とあんなに長い間どこへ消えてたんだい？」「むむ。ちょっと待て。僕は誰とも消えていない。ジーグラーが具合が悪かったんで、上で診察してくれと呼ばれたんだ。それはそうと、君が踊っていた奴は誰なんだ？」

though の次例は、「先述のような状況ではあるが、私は以下のことを主張する（I assert)」と解釈される。

(30) "Twist, you know this guy?" "No. I never saw him before. He's a dick, *though*." — *Sting* [映画台本]「トゥイスト、こいつを知ってるかい？」「いや、見かけたことはないな。でも、デカだろうよ」

ここでは話し手は会ったことはないがその男は刑事だと「主張」している。

then の場合は、先行文脈の内容が真であると仮定された上に then 以下の発話行為が成立していることが示され、次例では「先述の内容から考えて、私は以下のことを尋ねる（I ask)」と解釈される [cf. Quirk et al. 1985, p.640]。

(31) "Kerry, Robin is fine. She's with your neighbor, Mrs. Weiser. Emphatically, she is all right." Kelly felt her throat tighten. "*Then* what's wrong?" — M.H.Clark, *Let Me Call You Sweetheart* 「ケリー、ロビンは無事だ。隣のウィーサーさんの所にいるよ。強調しておくが、ロビンは大丈夫だ」ケリーは喉が引きつるのを感じた。「それなら、何があったって言うの？」

5．相反する機能を持つ場合

一つの談話標識が、一見したところ相反する機能を持つ場合がある。なぜそうなるのだろうか。actually は真実性や事実性を強調、あるいは予想と現実とのズレを強調する話し手の態度を表す。前者では先行発話の内容を明確化・正当化する情報を追加し、後者では意外感や驚きを抱いて現実を再確認する。両者は相反する機能ではあるが、「強調」に関する話し手の思考の方向が逆向きに働いている。一方は‘そうである’ことを、他方は‘そうでない’ことを強調しているのである。〔cf.（1）（2)〕

in fact には先行発話で示される事実や状況に関して詳しく正確な説明をする「補強」用法と、先行発話で示される事柄と矛盾する情報が提示され、先行発話で述べられたことを訂正する「矛盾」用法がある。両者の共通点は「先行発話の内容の明確化」であり、‘そうである’ことを明

確にするのか、‘そうでない’ことを明確にするのかの違いがある。〔cf.（13）（14）〕

anyway は先行発話に関係する情報を「付加」する機能を持つ。「付加」される情報が先行発話の内容を正当化・明確化するものか、修正・訂正するものかが異なる。〔cf.（6）（7）〕

いずれの場合も中心となる機能があり、それがプラス（どちらかといえば肯定的）指向か、マイナス（どちらかといえば否定的）指向かが異なるだけである。

6．対比・譲歩と話題転換：談話の再方向づけ

対比や譲歩を表す談話標識が談話構成レベルで機能すると、しばしば談話展開の方向を定める働きを担う。展開の種類には、逸れていた話を本題に戻すもの、新しい話題を導入するもの、会話終了の合図となるものがある。actually, anyway、but、in fact、though などにこの特徴が見られる。〔cf.（3）（8）（11）（15）（24）〕

当該の談話標識の前件と後件が対比的な内容であることが談話構成レベルに適用されると、前件と後件の話の「流れ」が異なることを意味する。談話標識によって談話が再方向づけされるとも言える。

7．日本語との比較

7.1. 機能の展開

日本語の談話標識も英語と同様、元来談話標識ではなかった。英語では接続の単位が語（句）と語（句）、文（節）と文（節）、さらに談話と談話へと拡大し、接続表現が談話標識の機能を担うようになる。このことは日本語にも当てはまる。

たとえば、文と文を接続する「…のだが、しかし」では、接続助詞「が」の意味が接続詞「しかし」によって再確認される。「…があって、それで」では、中止（なかどめ）形（文を途中で止めるときの語形）「あって」が表す未分化な接続関係を接続詞「それで」が積極的に限定する。このような中止形などが表す未分化な接続関係を接続詞が限定する方向が徹底し、形の上でも前の文と断絶した接続詞が文頭に置かれると、文と文を接続することになる。さらに、結びつける単位が前の一文だけでなく、段落を後の文や段落につなげる場合がある。また、接続表現が受ける文が相手（聞き手）の発話になると、応答詞的性格を持つようになる（高橋（他編）2005: 166-170）。

応答詞とは、前の文を受けて後の文につなぐ機能を持つ接続詞が、前の発言に対する答えになるものである。日本語の場合、（34）のように、接続助詞が終助詞的に用いられることもある。〔cf. 3.〕

(32) 「そんなことはやめて、すぐきてください」「しかし、きみ、なぜそんなことをいうんだ」—高橋（他編）2005：169

(33) 「わざと目立つ行動をして、こっちの注意を引いたのかもしれん」「なるほど…だけど、何のためのサクラですか」—東野圭吾『鏡の中で』

(34) 「山本さん、プールで泳いでるよ」「えっ、まだ朝の6時なのに」—松岡 2002/2004：234

「から」「け（れ）ど」なども同様に用いられ、先行の発話に対する話し手の態度を表す。

英語では元来は指示詞であったso、時を表す副詞であったthen、強意副詞であったactuallyなどが談話標識へと展開してきた。同様に日本語でも、本来は接続表現ではなかったものが談話標識として用いられる例が見られる。たとえば、「こうして」「こうなると」のように指示動詞から接続表現への転成が見られる。また、指示代名詞をもとにした述語形式からの転成の例、「それなのに」「それだから」もある（高橋（編）2005：165-166）。[2]

7.2. 話題転換（談話の再方向づけ）を示す表現

英語ではactually、anyway、but、however、in fact、thoughなどの対比を表す語句が、話題転換を示す合図となる。水谷（2001：119）でも日本語に関して、「けど・でも・が・のに」類は文末・句末を問わず、逆接という論理関係だけでなく方向転換的な用法を持つものが多いとする。

(35) 〔上司が部下に部署の移動の話をする場面〕「どうだろう、古巣に戻れば、きっと存分に力を発揮できると思うがね」…「しかし、ずいぶん立派な身体になったものだね」—乃南アサ『家族趣味』

(36) 「アメリカに住んでいたとき、やっぱり音楽家志望の女の子と仲良くなったんだ。あっちは同棲していると夫婦と認められるから、よく二人で一緒にパーティにも行ったよ。僕ひとりで行くと、今日は彼女はどうしたんだって、皆に聞かれるんだ」「ふーん」「でもね、さっきの映画、わりとよかったね」それが癖で、通彦はのんびり話題を変えてくる。—林真理子『不機嫌な果実』

7.3. 対人関係調整機能

英語の談話標識の多くは対人関係調整機能を持ち、相手（聞き手）に対する気遣いなどを表す。日本語の談話標識でも相手への配慮が表されるものが多い（水谷 2001：119）。

(37) わたしは昔みたいな小粒のほうが好きだけど。—水谷 2001：113

(38) あら、カロリー低いのよ、ここに書いてあるけど。水谷 2001：115

(37) では話し手は相手からの反論を予期し、相手が話を続けやすいように配慮し、(38) では話し手は自分の意見を控えめに補強している。

8．おわりに

英語では、元来副詞や接続詞であったものが当該の語句が作用するスコープが拡大することによって、談話標識として用いられるようになった。談話標識としての機能は、論理的・意味的な連結から話し手の態度を表す機能、談話構成機能、対人関係調整機能へと展開して行く。また、談話標識は応答詞的機能を持つことがある。さらに、談話標識が発話内容ではなく発話行為に関わる接続機能を持つこともある。一つの談話標識が一見したところ相反する機能を持つことがあるが、それらは中心的機能から派生する。対比・譲歩を示す談話標識が、談話の再方向づけの機能を担う現象も見られる。

これらの多くは日本語にも当てはまる現象であるが、この点については今後、さらに分析を続けたい。

注

1. 以下、(　) 内の番号は例文の番号を示す。
2. それ（前の文の客体的内容を指示）＋な・だ（‘それ’に述語性を与える機能をもつコピュラ）＋のに・から（前の文を後の文に関係付ける機能を持つ接続助詞）—（高橋（他編）2005：165-166）

参考文献

Aijmer, K. 2002. *English Discourse Particles: Evidence from a corpus.* Amsterdam: John Benjamins.

Blakemore, D. 1992. *Understanding Utterances.* Oxford: Blackwell.

— 2002. *Relevance and Linguistic Meaning.* Cambridge: Cambridge University Press.

Carter, R. & M.McCarthy. 2006. *Cambridge Grammar of English.* Cambridge: Cambridge University Press.

Dascal, M. & T.Katriel. 1977. "Between semantics and pragmatics: The two types of 'BUT' — Hebrew 'aval' and 'ela.'" *Theoretical Linguistics.* 4. pp.143-172.

Fraser, B. 2005. (unpublished) *On the Universality of Discourse Markers.*

Ferrara, K.W. 1997. "Form and function of the discourse marker *anyway*: Implications for

discourse analysis." *Linguistics*. 35. pp.343-378.

Fischer, K.(ed.) 2006. *Approaches to Discourse Particles*. Amsterdam: Elsevier.

Fischer, K. & M.Drescher. 1996. "Methods for Description of Discourse Particles: Contrastive Analysis." *Language Sciences*. 18. pp.853-861.

Fowler, H.W. 1996. *The New Fowler's Modern English Usage*. Revised by R.W.Burchfield. Oxford: Clarendon Press.

Hansen, M.-B.M. 1998. "The semantic status of discourse markers." *Lingua*. 104. pp.235-260.

Huddleston, R.D. & G.K.Pullum. 2002. *The Cambridge Grammar of the English Language*. Cambridge: Cambridge University Press.

Leech, G. 2006. *An A-Z of English Grammar and Usage*. London: Edward Arnold.

Lenk, U. 1998. "Discourse markers and global coherence in conversation." *Journal of Pragmatics*. 30 (2). pp.245-257.

Lewis, D.M. 2006. "Discourse markers in English: a discourse-pragmatic view." In K.Fischer (ed.) *Approaches to Discourse Particles*. Studies in Pragmatics 1. pp.43-59. Amsterdam: Elsevier.

松尾文子. 1993.「談話接続語としての so」衣笠忠司・赤野一郎・内田聖二（編）『英語基礎語彙の文法』pp.193-202. 東京：英宝社.

— 1998.「推論的応答で用いられる then の用法」『現代英語の語法と文法』小西友七先生傘寿記念論文集編集委員会. pp.296-304. 東京：大修館.

— 2000.「談話管理の機能をもつ接続語」『英米文学研究』第 36 号. pp.203-222. 梅光女学院大学英米文学会.

— 2007.「談話辞 but の用法の展開と対応する日本語」『六甲英語学研究・小西友七先生追悼号』第 10 号. pp.241-255. 六甲英語学研究会.

— 2007.「at least の語法と類語表現」『英米文学研究』第 40 号.pp.1-13. 梅光学院大学英米文学会.

— 2008.「談話辞 actually の機能の展開」『梅光学院大学論集』第 40 号. pp.78-88. 梅光学院大学.

松岡弘（監修）. 2002/2004.『日本語文法ハンドブック』東京：スリーエーネットワーク.

水谷信子. 2001.『続日英比較話しことばの文法』東京：くろしお出版.

Parrott, M. 2000. *Grammar for English Language Teachers*. Cambridge: Cambridge University Press.

Peters, P. 2004. *The Cambridge Guide to English Usage*. Cambridge: Cambridge University Press.

Quirk, R., S.Greenbaum, G.Leech & J.Svartvik. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Lngman.

Sinclair, J. (eds.) 2004[2] . *Collins COBUILD English Usage*. Glasgow: Harper-Collins.

Rouchota, V. 1998. "Connectives, coherence and relevance." In V.Rouchota & A.H.Jucker (eds.) *Current Issues in Relevance Theory*. pp. 11-57. Amsterdam: John Benjamins.

Schiffrin, D. 1987. *Discourse markers*. Cambridge: Cambridge University Press.

— 1990. "Between text and context: Deixis, anaphora, and the meaning of *then*." *Text*. 10 (3). pp.245-270.

— 1992. "Anaphoric *then*: aspectual, textual, and epistemic meaning." *Linguistics*. 30. pp.753-

792.

— 2001/2004. "Discourse Markers: Language, Meaning, and Context." In D. Schiffrin, D. Tanner & H.E.Hamilton (eds.) *The Handbook of Discourse Analysis.* pp.54-75. Massachusetts: Blackwell.

Schourup, L.C. & T.Waida. 1988. *English Connectives.* 東京：くろしお出版.

Swan, M. 2005[3]. *Practical English Usage.* London: Oxford University Press.

高橋太郎（他編）. 2005.『日本語の文法』東京：ひつじ書房.

Thomson, A.J. & A.V.Martinet 1995[4]. *A Practical English Grammar.* London: Oxford University Press.

Todd, L. 1997. *The Cassell Dictionary of English Usage.* London: Cassell.

Watts, R.J. 1988. "A relevance-theoretic approach to commentary pragmatic markers: the case of *actually*, *really*, and *basically*." *Acta Linguistica Hungaria.* 38. pp.235-260.